

「ヒロシマ平和学習受入プログラム ～ Peace for Smile, Smile for Peace ～」 の実施について

1 趣旨

全国の自治体から 8 月 6 日の平和記念式典に派遣された小中高大学生に対して、若い世代の平和リーダーの育成及び各自治体における平和文化の基盤づくりを目的に、対話的で深い学びの機会を提供することとし、次のとおり 2,200 人規模（プログラム参加者純計にユース・ピース・ボランティアを加えた数）で「第 1 回全国平和学習の集い」及び「第 1 回全国こども平和サミット」を開催します。

2 「第 1 回全国平和学習の集い」（以下「集い」という。）の開催概要

別紙 1 のとおり。

3 「第 1 回全国こども平和サミット」（以下「サミット」という。）の開催概要

別紙 2 のとおり。

4 プログラム参加自治体

小中高大学生 1,327 人

引率 490 人

合計（純計） 1,817 人（112 自治体（26 都道府県））

内訳（重複参加もあるため、合計に合致しない。）

1 集い

小中高大学生 828 人

引率 285 人

合計 1,113 人（72 自治体（22 都道府県））

2 サミット

小中高大学生 724 人

引率 285 人

合計 1,009 人（64 自治体（20 都道府県））

5 参加自治体等への記念品（別紙 3 のとおり。）

・ 自治体向け

- ①被爆樹木を活用した「ピース・ティッキング・クロック（平和を刻む時計）」、②ペナント、③トートバッグ

・ 参加者向け

- ④「平和を愛する市民の証」としての缶バッジ、⑤参加証

6 受入のおもてなし役であるユース・ピース・ボランティアの参加状況（別紙 4 のとおり。）

中高校生 333 人（5 県 9 市 6 町）

7 ヒロシマ平和学習受入プログラムの今後の展開

集いの参加団体への交通費等の補助制度の創設※もあり、引率者を含むプログラム全体の参加者数（延べ 2,122 人）は昨年（805 人）と比較し、164%増と大幅に増加している。現在の交通費補助制度の対象は、ヒロシマ平和学習受入プログラムのうち、集いの参加者に限られているが、プログラムに参加することにより平和学習の効果が高まると思われることから、来年度については、サミット参加者への交通費補助の対象拡大など、更なる補助制度の充実を図るとともに、プログラムの映像を自治体に提供し、その効果を確認してもらうことなどにより、一層の参加者数の拡大を目指します。

※ 国（厚生労働省）の支援も得て、1 団体当たり、こども 10 人・引率者 2 人の合計 12 人を上限に、来広の交通費と宿泊費の 1/3 を補助するもの。今年度は、対象自治体 66 のうち、60 団体（19 都道府県）が活用し、補助見込額は 10,541 千円

「第1回全国平和学習の集い ～ Peace for Smile, Smile for Peace ～」の開催について

1 目 的

平和記念式典に参列するために全国の自治体から派遣される中学生等と、被爆の実相やファシリテーションの方法を学んだ広島の中高校生が交流し、被爆の実相や平和の尊さの理解を深めるとともに、来広した中学生等による地元地域における平和文化の振興に寄与する。

2 共 催 (公財)広島平和文化センター、広島市、広島市教育委員会

3 協 力 広島大学

4 日時及び会場

令和7年8月5日(火)14:00～17:00 ①ANAクラウンプラザホテル広島(オーキッド)
②広島国際会議場(ヒマワリ)、③広島市役所(講堂)
6日(水)13:30～16:30 ④広島県JAビル(大会議室)、⑤広島市役所(講堂)
7日(木)9:00～12:00 ⑥広島国際会議場(ヒマワリ)、⑦広島市役所(講堂)

5 プログラム

司会進行：ユース・ピース・ボランティア

内容	詳細	所要時間 (予定)
開会	参加者紹介など	5分
開会挨拶	広島市長、平和文化センター副理事長ほか	5分
【第1部】平和学習会		75分
原爆被害の概要	ユース・ピース・ボランティアによる説明	(15分)
被爆体験講話 (質疑応答含む。)	講話者：被爆体験証言者 ①才木幹夫さん②梶本淑子さん③笠岡貞江さん ④八幡照子さん⑤河野キヨ美さん⑥岸田弘子さん ⑦内藤慎吾さん	(60分)
休憩		10分
【第2部】グループ・ディスカッション(進行：広島大学准教授等)		85分
グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッション(テーマ1※テーマ2※) ファシリテーター：ユース・ピース・ボランティア	(50分)
まとめ・発表	発表(5グループ×6分間)	(30分)
講評	広島大学准教授等による講評	(5分)
閉会	(閉会后、写真撮影)	—

※テーマ1

あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けましたか。
(広島や長崎等、関心のある地域の被害でもよい。)

※テーマ2

今、平和でない状態とはどのようなことがありますか。また、それはどうしたら解決できると思いますか。

【参考】昨年度の「全国平和学習の集い」の状況

昨年度までの名称は、「ヒロシマ青少年平和のつどい」で、昨年は、広島市を除き、17自治体から引率者を含め242人が参加(今年の参加者数は、1,113人で、対前年比で360%増)

「第1回全国こども平和サミット ～ Peace for Smile, Smile for Peace ～」の開催について

1 目 的

全国から参加するこどもたちが、平和への思いを共有し、その思いを「平和の種」として各地域に持ち帰ってもらう。

2 共 催 (公財)広島平和文化センター、広島市教育委員会

3 特別協力 株式会社たびまちゲート広島、NHK広島放送局

4 日時及び会場

令和7年8月6日(水)10:00～12:00 広島国際会議場 (フェニックスホール・ラン①)
(なお、ラン①は10:00～15:00)

5 プログラム

◎ フェニックスホール

司会進行：ユース・ピース・ボランティア

内容	詳細	所要時間 (予定)
挨拶	中満 泉 国連事務次長 (軍縮担当上級代表)	5 分
合唱	広島市立広島特別支援学校高等部普通科職業コース	5 分
【第1部】被爆体験を学ぼう		68 分
被爆の実相の映像視聴	ヒロシマ「被爆／復興」疑似体験映像の視聴	(8 分)
被爆体験講話の聴講	被爆体験証言者：梶矢文昭さん	(45 分)
詩の朗読	被爆体験記朗読ボランティア：島末佳賀美さん、竹廣美和さん	(15 分)
【第2部】平和のバトンをつないでいこう (平和への取組発表)		40 分
平和への取組発表	① 北広島市子ども大使 (北海道) ② 市原市平和大使 (千葉県) ③ 岡谷市教育委員会 (長野県) ④ 山陽学園中学校・高等学校 JRC 部 (岡山県) ⑤ 広島市立安佐中学校生徒会執行部 (広島県) ⑥ 広島市立広島商業高等学校広島市商ピースデパート本部役員 (広島県) ⑦ 石垣市平和大使 (沖縄県) ⑧ 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」 (広島県)	(1 団体 5 分)
閉会挨拶	平和文化センター副理事長	2 分

◎ ラン

内容	詳細
VR ゴーグル及び被爆証言応答装置等の体験	・被爆前の街並みから、焼け野原になった被爆当日、そして現在に至るまでの過程を疑似体験できる 360 度 VR ゴーグル・平和学習ツール ・被爆者 児玉光雄さんの記憶に基づき疑似体験できる 360 度 VR ゴーグル ・人工知能 (AI) を活用して被爆者 梶本淑子さんに被爆体験や戦前・戦後の暮らしについて質問ができる被爆証言応答装置

【参考1】昨年度の「全国こども平和サミット」の状況

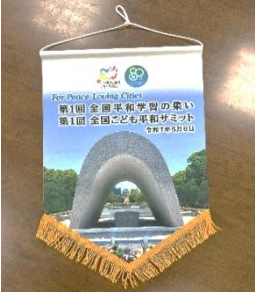
昨年度までの名称は、「ひろしま子ども平和の集い」で、昨年は、広島市を除き、42 自治体から引率者を含め 563 人が参加 (今年の参加者数は、1,009 人で、対前年比で 79%増)

【参考2】今年度の広島市からの参加状況

6 校 1 団体から引率者を含め 158 人が参加

参加自治体・参加者等への記念品について

ヒロシマ平和学習受入プログラムへ参加した各自治体・参加者等へ、参加の証として次のとおり記念品を配布します。

説明	写真
① ピース・ティッキング・クロック（平和を刻む時計） （各自治体へお渡しする説明文（折り鶴再生紙を使用）） 平和を強く願う貴都市は、原爆の壊滅的な被害から立ち上がり、世界平和への取組を進めるヒロシマに、深い共感と連帯の意を示していただきました。心より、感謝申し上げます。 この時計は、原爆を耐え抜いた「もの言わぬ証人」である被爆樹木（プラタナス）の剪定枝を活用して製作されたものです。80年間、広島市民に元気と安らぎを与えてくれた樹木です。 この不屈の被爆樹木による時計が見守る中、戦争体験者・被爆者の皆さんから、次の世代が確実に平和のバトンを受け継いでいくことができるよう、ともに歩みを進めましょう。 〔爆心地から 1,270m の広島市立天満小学校に今も佇む被爆樹木プラタナスの剪定枝により製作〕	 表 裏
② 共感と連帯のピース・フラッグ ヒロシマへの共感と連帯の証となるペナントです。	
③ トートバッグ ユース・ピース・ボランティアのこどもたちが決めた今年のスローガン「Peace for Smile, Smile for Peace」の文字が入ったトートバッグです。	
④ 「平和を愛する市民の証」としての缶バッジ プログラム参加者一人ひとりが平和を愛する市民であることの証として参加者全員へ配布する缶バッジです。	
⑤ 参加証（折り鶴再生紙を使用） 「平和を愛するこどもたち」の代表として全国のこどもたちと一緒に平和を学んだことの証として参加者全員へ渡します。	

ユース・ピース・ボランティアの参加状況

平和記念式典に参列し、かつ、「第1回全国平和学習の集い」に参加する、全国の小中高大学生と交流し、被爆の実相や平和の尊さを発信するなど、来広する青少年をサポートするユース・ピース・ボランティア*の参加状況は次のとおりです。

※ 平和文化企画課所管の英語でガイド活動等を行うユース・ピース・ボランティアとは別のもの。5県9市6町から333名が参加（うち、広島市を除く広島広域都市圏からの参加が40名、その他市外からの参加が7名）。昨年度までの名称は、「ヒロシマ・ピース・クラブ」で、昨年は55名が参加（今年の参加者は対前年比で505%増）

1 ユース・ピース・ボランティアの参加者数等の状況

区分	人数	学校数	生徒の住所地
中学生	228	56	3県5市3町
高校生	105	33	4県7市6町
合計	333	89	5県9市6町

2 参加者のうち、広島市立中学校の参加状況

区分	学校数	参加校	参加割合（%）
中区	4	3	75
東区	6	4	67
南区	8	4	50
西区	8	8	100
安佐南区	13	10	77
安佐北区	11	7	64
安芸区	5	4	80
佐伯区	9	5	56
合計	64	45	70

【参考】

ユース・ピース・ボランティアへの研修実績

1 目的

「第1回全国平和学習の集い」の事前研修として、被爆の実相についての理解を深めるとともに、グループ・ディスカッションを行う際のファシリテーションの仕方について学習する。

2 研修日数

4日間（10時間）

3 研修内容

平和記念公園内の慰霊碑巡り、被爆体験講話聴講、平和学習講座受講、ファシリテーション研修など

（特にファシリテーション研修は、広島大学の協力を得て、2時間×2回実施。「討議の目的は結論を出すことではなく、仲間を作ること。」、「傾聴は、字のごとく、耳だけでなく、目と心で聞くということ。」、「他者を受け入れる笑顔が大事であること。」などを学んだ。）